

「日本人の国民性 第13次全国調査」のポイント

文部科学省所管の統計数理研究所が発表した、「日本人の国民性調査」（平成26年10月30日）によると、日本人の長所として「勤勉」、「礼儀正しい」、「親切」を挙げる人が7割を超えています。また、職場の上司と仕事以外のつき合いは「あった方がよい」という割合は7割近くまで上昇しています。

1. 調査の概要

「日本人の国民性調査」は、1953年（昭和28年）に始まり、その後5年ごとに調査を繰り返して2013年（平成25年）には第13次調査が行われています。これらの調査は、基本的には同じ調査手法・同じ質問項目で実施されています。

継続調査としてのねらいは二つあり、第一は「長期にわたる継続質問事項によって、日本人の“ものの考え方”の変化の様相を明らかにすること、第二は「従来との継続を図りながら、将来の新しい動向を探り、それに備える」こととなっています。

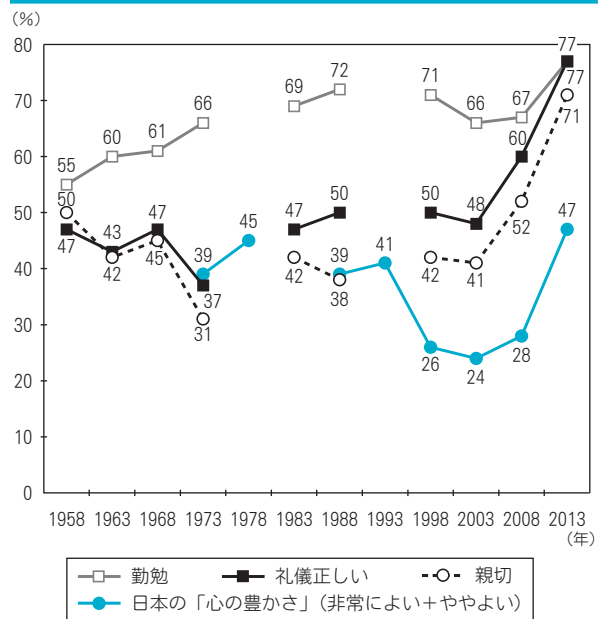
2. 日本人の性格（長所）

日本人の性格（長所）をあらわしていると思う言葉10個の中からいくつでも選んでもらった結果。

「勤勉」「礼儀正しい」はともに77%、「親切」が71%となっています。特に「礼儀正しい」は、これまでは5割前後で推移していましたが、今回（2013年）（以下同様）は77%まで上昇しています。「親切」は3割から5割の間でしたが、今回は71%に高まるなどいずれも20ポイント近く上昇して過去最高となっています。

また日本の『心の豊かさ』に対する4段階の評価結果では、「非常によい」あるいは「ややよい」とする人の割合は、1993年から1998年にかけて41%から26%へと落ち込み、そのまま30%を割り込んで低迷していました。しかし、今回は47%にまで急速に回復し、1973年の当該項目の調査開始以降では最も高い割合となっています。（図1）

図1：日本人の性格（長所）と日本の「心の豊かさ」に対する評価



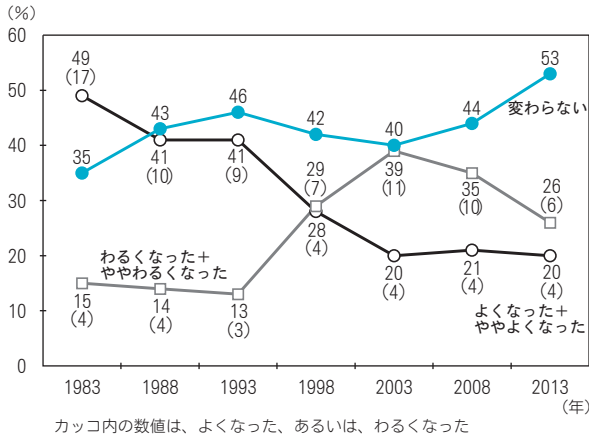
3. 日本の「生活水準」と「経済力」

日本の「生活水準」や「経済力」を4段階で尋ねたところ、「生活水準」に関して「よい」（非常によい+ややよい）とする人の割合は、前回（2008年）の49%から、今回は61%へ12ポイント上昇。「経済力」に関しても「よい」とする人の割合は、前回の37%から、今回は49%へ12ポイント上昇しています。

一方、実際に自分自身の生活水準がこの10年間で「よくなった」あるいは「ややよくなった」という人の割合は、1993年の41%から2003年に20%へと下落し、今回も20%に留まったままとなっています。他方、「わるくなった」あるいは「ややわるくなった」という人の割合は、1993年の13%から2003年には39%まで上昇しましたが

その後、生活水準が悪化したという人の割合は減り続けています。10年間「変わらない」という人の割合は上昇し、今回は53%に達しています。(図2)

図2：あなたの生活水準は、この10年でどう変わりましたか？



4. 将来の見通し

これから先「人々は幸福になるか、不幸になるか」について「幸福になる」という人の割合は1998年の19%から2003年に17%へ低下した後、2008年21%、今回27%と上昇しています。

「心のやすらかさ」について「やすらかさは増す」という人の割合は、1998年の9%から2003年8%、2008年10%、今回は14%となっています。

「人間の健康の面」について「よくなると思う」という人の割合は、1998年の16%から2003年19%、2008年24%、今回39%と上昇を続けています。

将来の見通しについては、楽観的な見方が増えてきているとしています。

5. 職場の人間関係観

会社で働いている場合、上役と仕事以外の付き合いが「なくてもよい」か「あった方がよい」のかを尋ねたところ、「あった方がよい」という割合は1973年には72%ありました。1998年・2003年には55%、2008年58%、今回65%と2000年前後からは上昇傾向にあります。また、「給料は多いが、レクリエーションのための運動会や旅行などはしない会社」と「給料はいくらか少ないが、

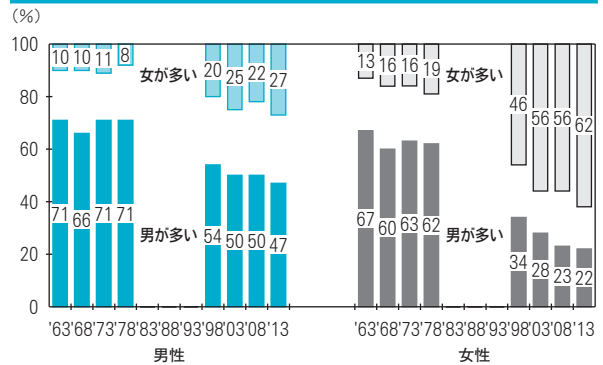
運動会や旅行などをして、家族的な雰囲気のある会社」のどちらに勤めたいかを尋ねたところ、「家族的な雰囲気のある会社」は1970年代に7割以上を占めていましたが、1993年は65%、1998年62%、2003年、2008年はともに53%と低下していました。しかし、今回は57%と上昇に転じています。

6. 男性と女性の比較

「もう一度生まれ変わるとしたら、男性と女性のどちらに生まれたいと思うか」の質問では、男性は1958年以降ずっと9割近くが「男に」と答えています。女性は1958年に27%であった「女に」の割合が、それ以降一貫して上昇を続け、今回は71%となっています。

「楽しみ」が多いのはどちらかを尋ねたところ、1970年代までは男性、女性ともに「男が多い」という回答が6割以上を占めていました。しかし、近年は「女が多い」の割合が男性、女性ともに上昇傾向にあり、特に女性では2003年、2008年はともに56%、今回は62%となっています。(図3)

図3：男と女の、どちらの方が「楽しみ」が多いと思うか



日本人の国民性として、「礼儀正しい」や「親切」が過去最高になり、「心の豊かさ」も回復しています。日々の生活の中で助け合いの大切さを感じ、身近な人とのふれあいを求めるなど、日本人に誇りを持つ人が増えてきていると感じます。

(奥 桂子)